５．両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

5．　両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

（1）確認種数（資料II.5.1）

今回とりまとめを行った26河川で確認された両生類は2目6科19種、爬虫類は2目7科13種、哺乳類は6目17科49種でした。それぞれの確認種数が多かった河川は、両生類が東北地方の雄物川の12種や中部地方の天竜川の11種、爬虫類が中部地方の天竜川と庄内川の11種、哺乳類が北海道地方の石狩川と東北地方の雄物川の19種でした。

（2）特定種の確認種数（資料II.5.2）

今回とりまとめを行った26河川で確認された特定種は、両生類6種、爬虫類1種、哺乳類7種でした。特定種の確認種数が多かった河川は両生類では東北地方の雄物川の4種、爬虫類では中部地方の庄内川等の1種、哺乳類では北海道地方の石狩川等の3種でした。

（注）特定種の選定基準について
本資料においては、次のものを特定種としています。
- 「文化財保護法」の特別天然記念物及び天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- 環境庁編（1997-1998）「レッドリスト」掲載種
- 環境庁編（1991）「日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブックー」掲載種
- 環境庁編（1976）「緑の国勢調査（第１回自然環境保全調査）」における「すぐれた自然の調査」主要野生動物一覧の掲載種
- 環境庁編（1982）「緑の国勢調査（第２回自然環境保全基礎調査）」における「日本の重要な両生類・爬虫類」調査対象種

（3）外来種の確認種数（資料II.5.3）

今回とりまとめを行った26河川で確認された外来種は、両生類1種、爬虫類1種、哺乳類9種でした。

（注）外来種の選定基準について
本資料における外来種は、おおよそ明治以降に侵入したと考えられる国外由来の動植物とし、侵入後に日本で定着した種であるか否かは、判断が困難な種があるため考慮していません。また、外来種の選定は、資料Ｉ.5（42～43ページ）に示した文献及び学識経験者の意見により行っています。

（4）タヌキ類、キツネ類の確認された地域（資料II.5.4）

確認状況の概要は、12～13ページに示すとおりです。

（5）アオダイショウの確認された地域（資料II.5.4）

確認状況の概要は、13ページに示すとおりです。

（6）ミシシッピアカミミガメの確認された地域（資料II.5.4）

確認状況の概要は、19ページに示すとおりです。

（7）イシガメ、クサガメの確認された地域（**資料II.5.4**）
確認状況の概要は、20ページに示すとおりです。

（8）ヌートリアの確認された地域（**資料II.5.4**）
確認状況の概要は、20～21ページに示すとおりです。

（9）タヌキ類、キツネ類、アオダイショウ、ミシシッピアカミミガメ、イシガメ、クサガメ、ヌートリアの確認状況の経年比較（**資料II.5.5**）
確認状況の概要は、12～13、19～21ページに示すとおりです。